

社会医療法人仁寿会加藤病院 実習プログラム

		午前		午後	
	曜日	時間	診療内容	時間	診療内容
1 週目	月曜日	800-1200	オリエンテーション 各種専門職の業務	1330-	病棟 MSW/ケアマネの業務研修
	火曜日	800- 900-1200	在宅・病棟申し送り 訪問診療	1330-	訪問看護同行
	水曜日	800- 900-1200	老健朝礼 総合外来	1400-1600	井田診療所
	木曜日	800- 900-	身体拘束廃止推進委員会 巡回診療	1400-1500	大学レクチャー
				1500-	検診・ワクチン外来
	金曜日	800- 900-1200	在宅・病棟申し送り 訪問診療	1400-	リハカン・NST 1600-1700 振り返り（牧石先生）
2 週目	月曜日	800- 830-	朝礼・在宅・病棟申し送り 仁寿診療所ながひさ	1330-	仁寿診療所ながひさ
	火曜日	800- 900-1200	在宅・病棟申し送り 訪問診療	1330-	検診・ワクチン外来 1600-1700 英語医療面接レクチャー
	水曜日	800- 900-1200	老健朝礼 仁寿診療所そじき	1400-1600	井田診療所
	木曜日	800- 900-1200	身体拘束廃止推進委員会 訪問リハビリ	1300-1330	VE.VF 検診・ワクチン外来
				1330-	産業医活動
	金曜日	800- 900-1200	在宅・病棟申し送り 訪問診療	1330-	1600-1700 振り返り（牧石先生）
3 週目	月曜日	800- 900-1200	朝礼・在宅・病棟申し送り 訪問診療	1400-	組み立て式レントゲン実習
	火曜日	800- 900-1200	在宅・病棟申し送り 訪問診療	1400-1500	家庭医レクチャー（高橋先生）
				1500-	検診・ワクチン外来
	水曜日	800- 900-1200	老健朝礼 総合外来	1400-1600	井田診療所
	木曜日	800- 900-1200	身体拘束廃止推進委員会 訪問診療	1330-	検診・ワクチン外来
	金曜日	800- 900-1200	在宅・病棟申し送り 訪問診療	1400-	リハカン・NST 1600-1700 振り返り（牧石先生）
4 週目	月曜日	800- 900-	朝礼・在宅・病棟申し送り 病棟実習	1400-	栄養状態評価実習
	火曜日	800- 900-1200	在宅・病棟申し送り 訪問診療	1400-1500	家庭医レクチャー（佐藤先生）
	水曜日	800- 900-1200	老健朝礼 総合外来	1400-1600	井田診療所
	木曜日	800- 900-1200	身体拘束廃止推進委員会 訪問診療	1400-	ミニ講演会
	金曜日	800- 900-1200	在宅・病棟申し送り 訪問診療	1400-	リハカン・NST
				1600-	総括

## 実習内容詳細

### 朝礼申し送り・夕の振り返りについて

月火金毎朝訪問診療を提供している患者様や病棟の不安定な患者さまに関して、状態の共有を各スタッフとともに行います

水曜日朝は老健の朝礼に参加します。

また木曜日の朝は身体拘束廃止のために同老健で話し合いの場を持ちます。

毎日夕方各自 1 分間振り返りシートを記載してもらい、可能な限り、振り返りの時間を持つ予定です。

### 総合外来

診察、処置にできるだけ参加してもらいます。

小児、成人の健診・保健指導、高齢者健診および総合評価を理解してもらいたいと考えています。

### 検診・ワクチン外来

指導医のもと、診察、ワクチン接種にできるだけ参加してもらいたいと考えています。

### 入院患者担当

複数人入院患者を指導医とともに担当していただきます。カルテ記載、検査治療方針などを指導医とともにディスカッションしていきます。また入院から退院に向けて在宅療養を再開するための取り組み、連携を学びます

### 栄養サポートチームカンファレンス・リハビリテーションカンファレンス

毎週金曜日午後開催されます。他の多くの医療関連専門職が集い、患者中心の医療について討議し、計画・実行・進捗状況の確認・医療提供の改善を行う経験を重ねます。

### 仁寿苑

当法人の運営する介護老人保健施設仁寿苑（介護保険を活用した在宅復帰支援施設）において、患者中心の包括ケアを提供するために行われている専門職連携カンファレンスに参加し、在宅での療養をイメージしながら在宅復帰支援を行うことを経験します。またそこで毎週木曜日の朝に行われている身体拘束廃止委員会に参加し、身体拘束廃止に向けての取り組みについて参加してもらいます。

### 訪問診療

指導医とともに患者宅、各種施設へ訪問し、診察、処置の介助、カルテ記載をおこないます。また当法人内にある在宅療養支援センターにおいて、在宅療養を維持するために行われている専門職連携カンファレンスに参加し、湧き上がる様々な課題に向き合いながら解決に向けて在宅療養を支援する実際を経験します。

そして在宅医療における緩和ケア、終末期ケアを学び、症例があれば、在宅での看取りについても経験してもらいます。

### 仁寿診療所そじき、仁寿診療所ながひさ、井田診療所

より限られた医療資源の中での外来機能を学び、病診連携（加藤病院、大田市立病院などとの連携について）における診療所の役割について学習します。

### 巡回診療

主に2か所の僻地地域での診療に同行し診療に参加してもらいます

#### **サービス付き高齢者住宅 和かち逢う家**

サービス付き高齢者住宅とは何か、そこで行われているケアについて説明できる、また施設との違いについて説明できることを目標とします。

#### **学校医活動・産業医活動**

実習期間中に必ずしも活動があるわけではないですが、学校保健・産業保健活動において児童・生徒・労働者への健康教育の場面に同行していただきます。

#### **訪問看護 訪問リハビリ同行**

看護師、セラピストの患者様宅への訪問に同行し、提供している医療サービスを理解してもらいます。医師による訪問診療との違い、看護、リハビリ専門職からの課題を共有します。

#### **VE, VF（嚥下内視鏡、嚥下造影）見学**

摂食嚥下機能が低下した患者さまに対し嚥下機能評価としてVE, VFを行います。そして結果をリハスタッフ、栄養士の方たちと共有し改善に向けて協議します。

#### **栄養状態評価実習**

栄養士による入院患者さまの栄養アセスメントの現場を学びます。SGA（主観的包括的アセスメント）をおこない栄養状態に異常があるかどうかを察知できる様学習します。

#### **組み立て式レントゲン体験**

病院外でのレントゲン撮影においてモバイル性のある組み立て式レントゲンのレクチャーを放射線科技師より受けます。

#### **ミニレクチャー**

実習の終わりに、課題は自由としますので、ミニレクチャー（30分程度）を医療関係者以外の方も含めた職員に向けて開催してもらいます。

**その他** 実習計画は、適宜変更となることがあります。また超音波検査（心臓、腹部、下肢静脈、甲状腺など）、胃カメラ、大腸カメラ検査の見学や参加、グラム染色、整形外科的処置など希望に応じて実習計画に追加することができます。

## **実習場所**

加藤病院、老人保健施設仁寿苑、仁寿診療所そじき、仁寿診療所ながひさ、サービス付き高齢者住宅和かち逢う家、患者さま居宅、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、グループホーム

## **初日集合場所・時間**

7：45 仁寿会研修棟 （正面玄関受付で来院したことをお伝えください。ご案内いたします）

2日目以降は 5F 病院医局 また随時集合場所の変更あればお知らせします

## **連絡先**

社会医療法人仁寿会加藤病院 0855-72-0640

高橋のはら

大畑修三

社会医療法人 仁寿会 加藤病院（在宅療養支援病院）

## 管理者

加藤病院 病院長 加藤節司

住所・連絡先

加藤病院 〒696-0001 邑智郡川本町川本 383 番地 1

TEL 0855-72-0640 FAX 0855-72-1608

(URL) <https://k-jinju.or.jp/> (mail) [info@k-jinju.or.jp](mailto:info@k-jinju.or.jp)

## 概要

**診療科** 内科、循環器内科、消化器内科、内分泌・代謝内科、神経内科、ペインクリニック内科、外科、整形外科、小児科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科、リハビリテーション科、麻酔科、精神科

**医師数** 13名（非常勤22名）

**病床数** 地域包括ケア病棟1 55床、在宅復帰強化型療養病棟 26床

**在宅医療** 有（強化型在宅療養支援病院；院内に在宅療養支援センターを保有し包括的在宅医療サービスを提供）

## 連携病院等

島根大学医学部附属病院、島根県立中央病院、済生会江津総合病院、大田市立病院\*、公立邑智病院\*、（特医）恵和会石東病院\*

- 1) 島根大学医学部附属病院内科専門研修プログラム連携施設
- 2) 総合診療専門研修基幹施設

\* ) 大田圏域医療機能連携協定締結病院

## 特色・理念

Facts at a Glance

- ・1932年創立
- ・山陰初のへき地医療分野での社会医療法人認可(2011年)
- ・日本医療機能評価機構認定病院 3期連続認定更新(2015年)
- ・島根大学医学部/東邦大学医学部/広島国際大学薬学部/広島国際大学医療栄養学部/島根県立大学看護学部学生等による専門職学生連携合同医療教育プログラム実施、2018年度計22名の参加
- ・機能強化型在宅療養支援病院(2013週刊朝日 在宅医療のいい病院 掲載)
- ・島根県唯一の国指定在宅医療連携拠点事業モデル拠点 (2012年)
- ・山陰初の子育て支援に取り組む企業「くるみん」認定取得(2009年)
- ・第一回島根いきいき雇用賞受賞 (2015年)

- ・山陰両県で初となる厚労省プラチナくるみんの取得（2017年）
  - ・経産省「健康経営優良法人2018 ホワイト500（大規模法人部門）」に山陰両県で唯一認定
  - ・経産省「健康経営優良法人2021」認定
  - ・西日本初の多目的ドクターカー（ヘルスプロモーションカー）「ざいたくん」配備（2014年）
  - ・島根県初の口腔ケアサポーター認定制度（島根県歯科医師会・邑智郡歯科医師会創設）事務局運営（2014年）
  - ・県西部唯一の日本禁煙学会認定禁煙指導医のいる病院
  - ・加藤病院の果たしている役割と病院機能（実習体験可能事項）しまね型医療提供体制構築事業（圏域課題解決推進事業）実施中
1. 健康増進（産業医活動・住民健康教育）
  2. 病気の予防（特定健診・特定保健指導・学校医活動：結核検診・予防接種、地域疫学研究）
  3. 病気の早期発見（検診活動に加え、生活習慣病管理・合併症予防）
  4. 急な病気やありふれた病気の診断・治療（重症化予防総合診療）
  5. 重症・専門治療の必要な病気の治療（専門医への紹介）
  6. 社会復帰（各種介護保険・障害者自立支援サービスの提供、介護保険・障害者自立支援意見書・介護保険認定審査）
  7. 緩和ケア（訪問診療等人生の最終段階におけるケア）
  8. 意思決定支援（人生会議）等
  9. 不慮の死・突然死（警察遺体検案）への対応
  10. 地域医療システム整備（行政各種会議・国民健康保険会議への参画）
  11. 地域医療人育成支援
  12. 研究を通じた産業振興、雇用の場の創出等
- ・理念、『心・技・体・責任』。使命、『健康長寿の実現』。ビジョン、『地域の人々を最もよく知り、その良き人生を支援することで社会を変えていく』。病院基本方針『患者さま中心の医療、安全な医療、公正な医療、生きがいを実現できる医療、これら4つの医療実現のため、私たちは組織をよりよく変革し続けます。』

## 設備

研修設備；院内有線&無線 LAN (Wi-Fi) PC 研修室 食堂・談話室 休憩・ロッカー室 ウェブ会議システム 電子黒板

診療設備；在宅医療関連（遠隔医療システム・在宅用組立式ポータブル X 線検査装置・エアウェイマネジメントモバイルスコープ・V スキャンモバイル・ポータブル&携帯型心電計・多機能携帯型ヘルスマニタ・アイスタットアナライザー・モバイル電子カルテシステム・ヘルスプロモーションカー（多目的ドクターカー））ポリソムノグラフィ

院内設備；CT・内視鏡検査システム・血圧脈波検査装置・X 線検査装置・X 線透視検査装置(嚥下造影検査)・超音波検査装置(ポータブル)・マルチ生体モニター、人工呼吸器・除細動器・遠赤外線レーザー治療器・ウォーターベッド・呼気 CO 濃度測定器・嚥下内視鏡

## 実習内容

実習 3 つの柱；

- ①在宅療養支援、医療関連専門職連携をキーワードに当法人が行う地域包括ケアとその仕組みを学ぶ。
- ②病院、在宅療養支援センター、介護施設及び患者居宅のそれぞれの現場で果たしている医師の役割を学ぶ。
- ③医療関連専門職それぞれの専門性を体験し、尊敬しあい、学びあい、助け合うヘルスケアチームの一員として、彼らとの連携による患者さん中心の医療を学ぶ。

## 病院長からのメッセージ

病院理念 心・技・体・責任（まごころ・医療技術・健康健全・信頼と期待）

ようこそ、仁寿会加藤病院へ。当院は 1932 年、故加藤忠造が叔父から病院を継承し加藤病院を創立して以来、常に地域に密着した医療を提供してきました。2011 年には、その高い公益性をご評価いただき、全国で 16 番目となる社会医療法人(へき地医療分野)認定を受けています。

私たちは、『在宅療養を支援する』医療介護保健複合事業体です。多くの専門職が患者さんを中心に集まり、患者さんとともにヘルスケアチームを作り、患者さんの生活の質の向上を支援しています。ここで働く医師は、疾患の診断と治療にとどまらず、このヘルスケアチームの素晴らしい機能が医療の本質的なダイナミズムの一つであると理解し、医師としてそのチーム機能を高め、患者さんの望む在宅療養に貢献したいと考えています。

これらヘルスケアチームが有機的につながる地域包括ケアは、医療と介護を必要とし続ける方々をはじめとする地域住民の尊厳を保持し、社会の連帯を高め、地域を守り、創生する力があると思います。関わるもの皆が満足できる地域医療・地域包括ケアについて一緒に学び、一緒に考えましょう。私たちはこの実習プログラムを「田舎で学ぶ専門職連携医療教育プログラム；Rural InterProfessional Education Program(RIPEP)」と呼び、実習

の「コアバリュー」を「教えることは学ぶこと、学ぶことは教えること」としています。  
川本という田舎で、守られた学習環境の中、先進的な取り組みを学び、より良く改善して  
いくことに参加してみませんか。私たち職員一同は地域医療実習に参加する学生の皆さん  
を応援しています。

皆さんと川本で会える日を楽しみに待っています。